

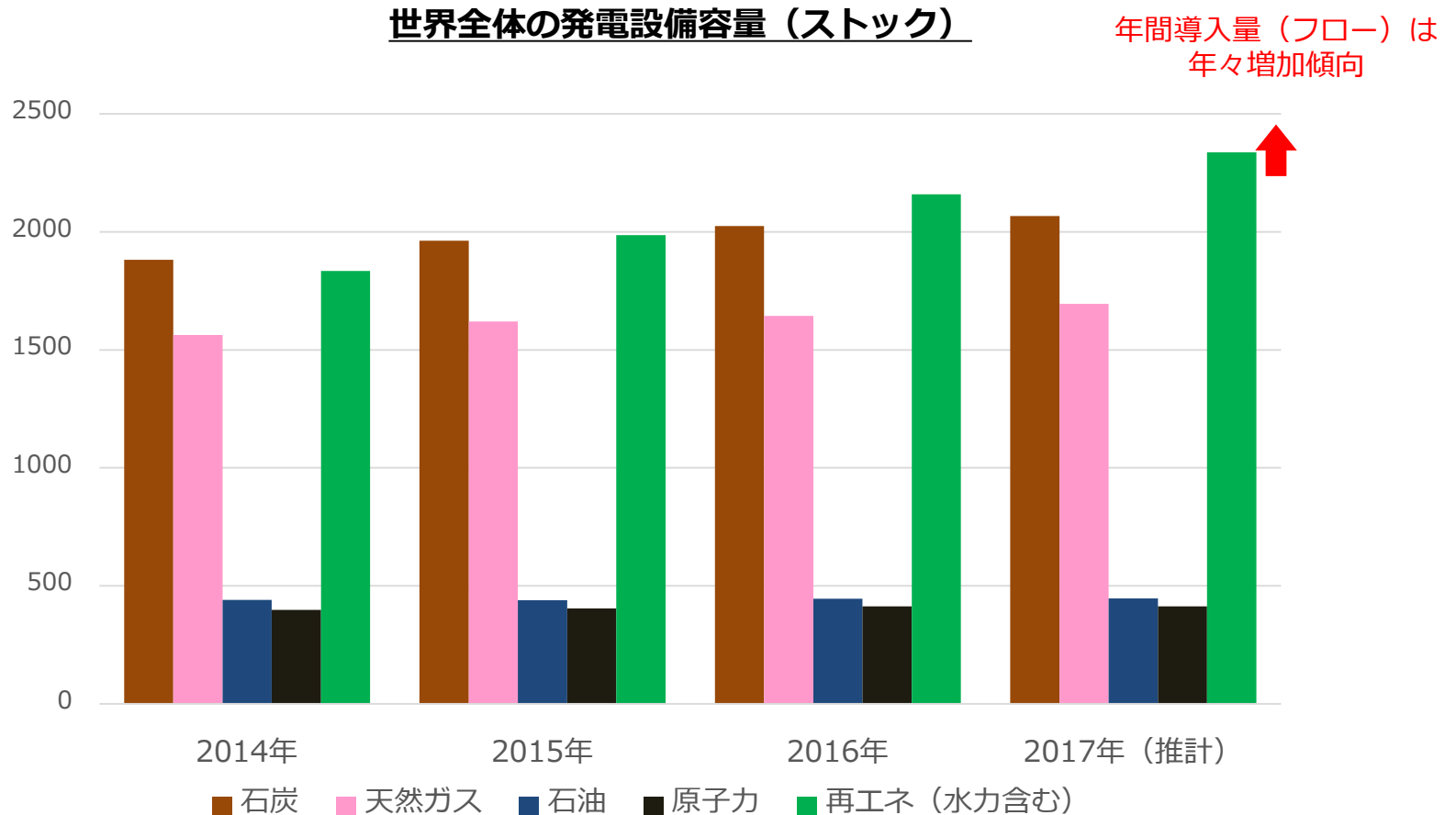
再生可能エネルギーの発電コスト等について

2019年3月

資源エネルギー庁

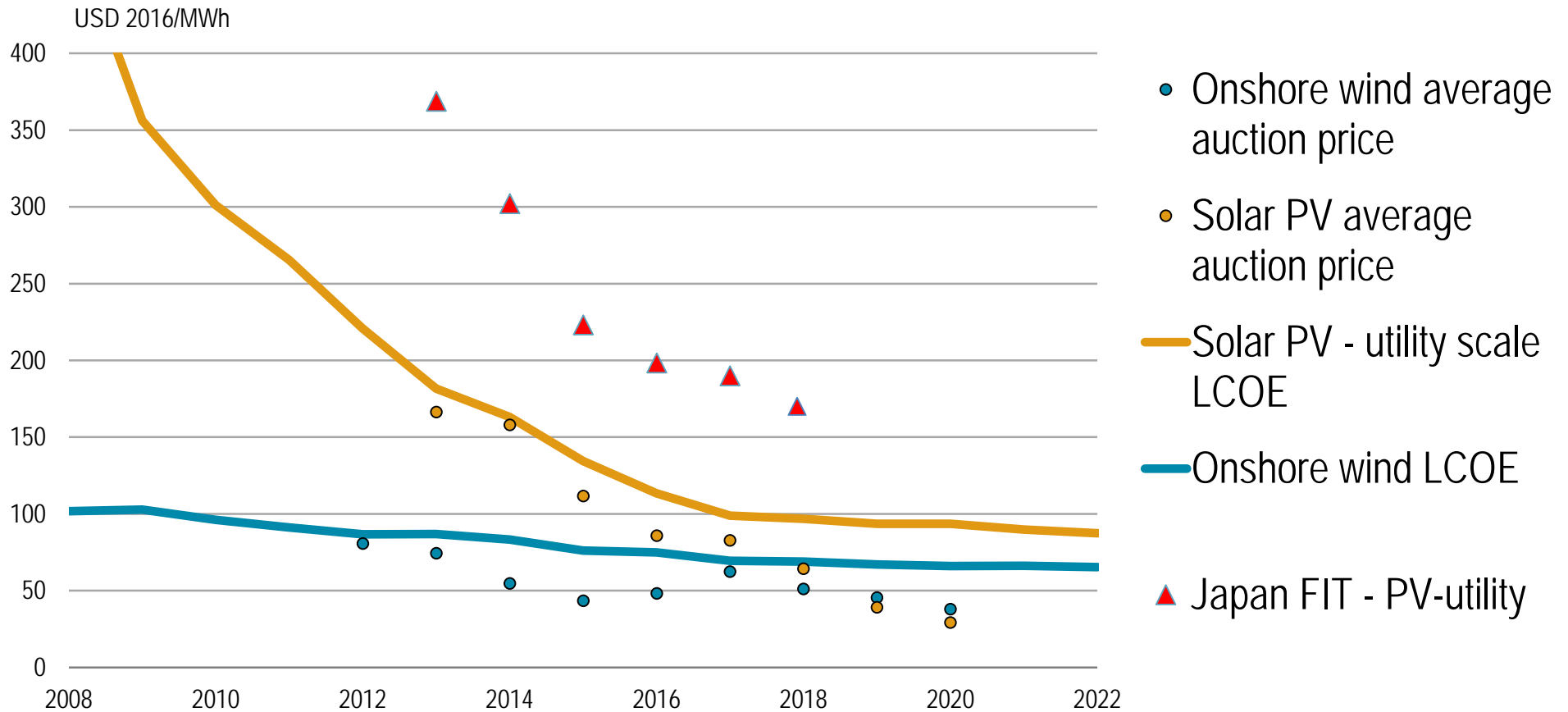
世界の再生可能エネルギーの導入状況

- 世界では、再生可能エネルギーの導入が大きく進展。
- 世界全体における再生可能エネルギーの発電設備容量（ストック）、年間導入量（フロー）ともに、着実に増加している。



世界の再エネコストの低減傾向

- 世界では再エネコストが大きく低減。太陽光発電・陸上風力発電ともに、10円/kWh未満での事業実施が可能となっている。

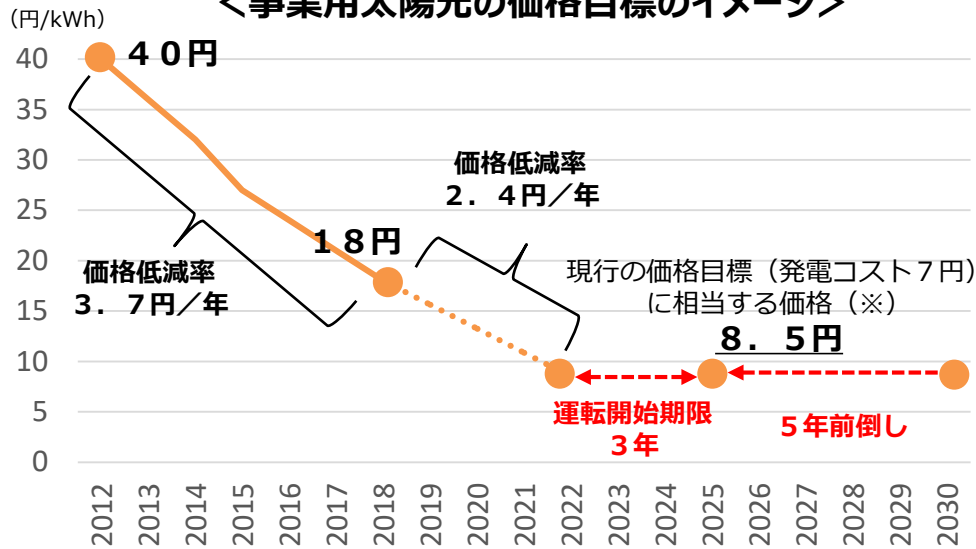


※IEA Renewables 2017をもとに資源エネルギー庁作成。

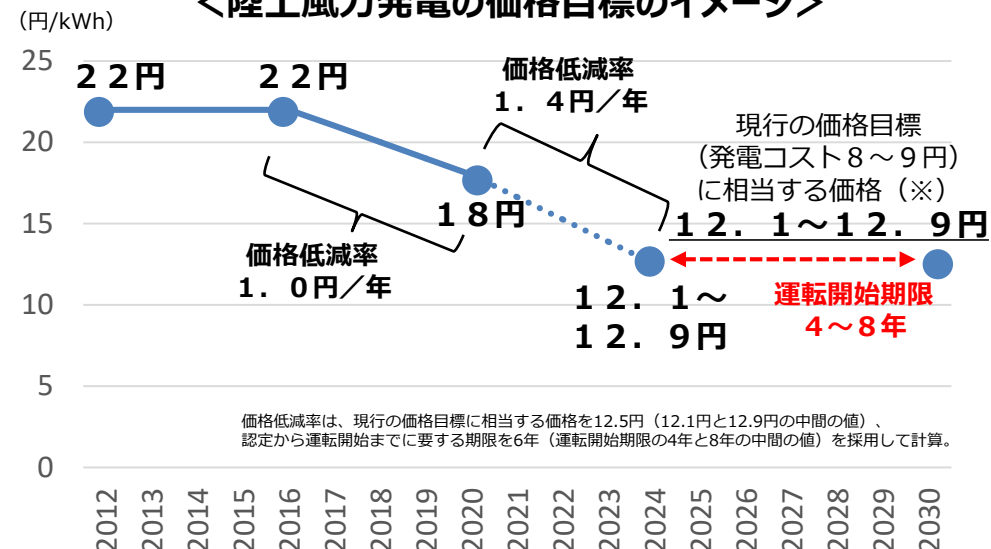
FIT法に基づく中長期の価格目標

- 改正FIT法（2017年4月施行）では、発電事業者・メーカー等の努力やイノベーションによるコスト低減を促すため、再エネ電源の価格目標を設定することとされた。
- 今年度の調達価格等算定委員会では、コスト低減を加速化させるため、国内外のコスト動向を踏まえて、太陽光発電・風力発電の価格目標を改めて検討し、以下の意見が取りまとめられた。（現在パブリックコメント実施中。年度末までに経済産業大臣として決定予定。）
 - ✓ 太陽光発電
 - 事業用：2030年発電コスト7円/kWh ⇒ 2025年発電コスト7円/kWh
 - 住宅用：できるだけ早期に売電価格が卸電力市場価格並み
⇒ 2025年売電価格が卸電力市場価格並み（10.3円/kWh程度）
 - ✓ 風力発電
 - 陸上・着床式洋上は、引き続き「2030年発電コスト8～9円/kWh」という目標の実現に向けて、コスト低減の取組をより深掘り

＜事業用太陽光の価格目標のイメージ＞



＜陸上風力発電の価格目標のイメージ＞



（※）割引率（IRR）は現在（2018年度）の調達価格の想定を用いており、この水準が変動する場合、価格目標を達成するための価格は変わります。

蓄電池関連の取組について

- 産業用、家庭用の蓄電池については、ともに2020年度の目標価格を設けており、予算を措置している。
- 系統用蓄電池については、同様の機能を担う揚水発電の設置コストを2020年度末の目標価格としており、その目標に向けた取組を支援する予算を措置している。

【各用途の目標価格】

	(2015年度) 実績価格	(2020年度) 目標価格
kWh用蓄電池 (主に家庭用)	約22万円/kWh	<u>9万円/kWh以下</u>
kW用蓄電池 (主に産業用)	約36万円/kW	<u>15万円/kW以下</u>
kWh用蓄電池 (主に系統用)	—	<u>2.3万円/kWh以下</u> (揚水発電の設置コスト並み)

【系統側蓄電池の低コスト化に向けた技術開発】(平成26年度補正 65億円)

- ◆ 概要：新材料の開発、高出力化、コンテナ化等による低コスト化技術の開発を行う。
- ◆ 対象：レドックスフロー電池（住友電工 等）、NAS電池（日本ガイシ）